

ISO/TC35/SC9 国内委員会事務局

財団法人 日本塗料検査協会

中 家 俊 和

1. まえがき

今年の ISO/TC35 (塗料とワニス) 国際会議は、東京塗料会館において5月24日から28日の日程で開催された。アジアから中国(4名)、韓国(2名)および日本(40名)、欧米からドイツ(7名)、オランダ(3名)、アメリカ(3名)、イギリス(2名)、フランス(2名)、スイス(1名)およびフィンランド(1名)の10カ国65名が参加して活発な討議が行われた。TC35/SC9 (塗料の一般試験方法) の会議も同時に開催されたので、今回はその概要を中心に報告する。

2. TC35/SC9 会議の概要

SC9 の会議は WG29 (電気化学的試験方法)、WG30 (硬化前塗料の試験方法)、WG31 (硬化後塗膜の試験方法) および SC9 全体会議が開催され、各作業グループ (Working Group; 略して WG) の報告があった。



写真 ISO/TC35/SC9 東京会議の状況

SC9 全体会議には、22カ国のP-メンバーのうち、日本、中国、フィンランド、フランス、ドイツ、オランダ、韓国、スイス、イギリス、アメリカの10カ国、30数名が参加した。TC35/SC9 全体会議の決議内容は、各WGの報告の中で述べることにする。

3. WG29 (電気化学的試験方法) 会議の概要および決議事項

SC9/WG29 の会議は5月25日に開催された。9時から塗膜の電気化学的測定法に関する研究会 (workshop) を行い、講師として板垣委員 (東京理科大学教授) から「Electrochemical Impedance Spectroscopy」、Dr J Vogelsang (SC9/WG29 コンビナー) から「Relaxation Voltammetry」、田邊委員から「Current interrupter technique (CI法)」の講演が行われ、各測定方法の理解を深めることができた。その後、11時から終日をかけて日本提案規格である ISO WD 13129 Paints and varnishes -Electrochemical measurement of the protection provided to steel by paint coating-current interrupter technique のドラフトを審議した。仕上がったドラフトに対して、各国の異論も無く CD 投票をパスして DIS から入ることになった。

4. WG30 (硬化前塗料の試験方法) 会議の概要

SC9/WG30 の会議は5月24日9時から審議を行ない、以下のように決定した。

1) ISO 3678:1976 Paints and varnishes - Print-free test

従来 WG31 が担当していた ISO 9117 Paints and varnishes -Drying tests に、新たに Part 6 として ISO 3678:1976 を組入れ、WG30 が担当することになった。

ISO 9117 新シリーズは、下記の6規格で構成されることになる。

- ISO 9117 Paints and varnishes -Drying tests
- Part 1: Determination of through-dry state and through-dry time
- Part 2: Pressure test for stackability
- Part 3: Surface-drying test using ballotini
- Part 4: Test using a mechanical recorder
- Part 5: Modified Bandow-Wolff test
- Part 6: Print-free test

- 2) ISO 1524:2000 Paints, varnishes and printing inks -Determination of fineness of grind
 現行のツブゲージの読み方では再現性に問題があると、定期見直し時にドイツが改訂を提案したもので、塗料分散度をより正確に判定できるよう、新たな判定方法をドイツが提案し CD 投票を行うことになった。
- 3) ISO 15528:2000 Paints, varnishes and raw materials for paints and varnishes -Sampling
 現在のサンプリング法は統計的観点から見直す必要があると、定期見直し時にドイツが改訂を提案したもので、新たなサンプリング法をドイツが提案し、CD 投票を行うことになった。
- 4) ISO 1514:2004 Paints and varnishes -Standard panels for testing
 試験用標準試験板に記載されているアルミニウム板のクロム酸処理法は、環境上の問題から 2012 年の定期見直しで改訂することになった。

5. WG31(硬化後塗膜の試験方法)会議の概要

SC9/WG31 の会議は 5 月 24 日 13 時 30 分から審議を行ない、以下のように決定した。

- 1) 日本提案規格 ISO CD12013
 Determination of curing characteristics using free damped oscillation method.
 Part 1: Start temperature of reaction
 Part 2: Glass-transition temperature
 にタイトルを修正するとともに、CD に使用していた装置の図を新しいものに入替え、次の段階である DIS 投票を行うことになった。
- 2) ISO 13803 および ISO 2813 の担当替え
 ISO 13803:2000 Paints and varnishes -Determination of reflection haze on paint films at 20° および ISO 2813:1994 Paints and varnishes -Determination of specular gloss of non-metallic paint films at 20°, 60° and 85° の 2 規格は、従来 WG22 が担当していたが、WG31 が担当することになった。これにより、WG22 は測色のみ担当することになった。
- 3) ISO 11997-2:2000 Paints and varnishes -Determination of resistance to cyclic corrosion conditions -Part 2: Wet (salt fog)/dry/humidity/UV light の改訂
 定期見直し時に日本から、腐食サイクル試験の紫外線光源にキセノン、UV ランプおよびカーボンアークを使用する 3 種の試験方法を附属書 B に併記する

内容に改訂するよう提案したもので、CD 投票が行われる。

- 4) ISO 11507 と ISO 11341 を統合して新規格を設定
 ISO 11507:2007 Paints and varnishes -Exposure of coatings to artificial weathering -Exposure to fluorescent UV lamps and water および ISO 11341 Paints and varnishes -Artificial weathering and exposure to artificial radiation -Exposure to filtered xenon-arc radiation を統合するとともに、Part 1 General guidance および Part 4 Exposure to carbon-arc を新たに設定し、新規格の Part 1 ~ 4 シリーズとすることに決まった。
 Part 1: General guidance (NWIP)
 Part 2: Exposure xenon (ISO 11341)
 Part 3: Exposure fluorescent (ISO 11507:2007)
 Part 4: Exposure to carbon-arc (NWIP)
 なお、Part 1: General guidance および Part 4: Exposure to carbon-arc は、新業務項目提案 (NWIP) の投票が行われる。

6. あとがき

TC35 東京国際会議の報告を中心に各 WG の会議の概要を紹介した。TC35/SC9 国内委員会の委員の方々には、国際会議の準備も含め事前に日本の立場をアピールするための意見の調整等、多大なご協力を頂き国際会議を終了することが出来たことをご報告し、関係各位に厚く御礼を申し上げます。

ニ ュ ー ス

JIS マーク表示認証業務

- ・当協会が平成 21 年 12 月 1 日から平成 22 年 5 月 31 日までの間に JIS 認証した鋳工業品は表 1 のとおりです。
- ・改正工業標準化法に基づいて当協会が行っている JIS マーク表示認証業務の内容及び塗料関連 JIS に関する最近の改正情報については、当協会のホームページに掲載していますので、下記の URL にてご確認下さい。

URL : <http://www.jpia.or.jp>

表 1 平成 21 年 12 月 1 日から平成 22 年 5 月 31 日までの間に JIS 認証した鋳工業品

| 認証番号 | 認証取得者の名称 | 認証区分 (規格番号) | 規格名称 | 認証年月日 |
|-----------|------------|-------------|--------------|------------|
| JP0509005 | 日本ペイント株式会社 | JIS K 5659 | 鋼構造物用耐候性塗料 | 2009/12/ 1 |
| JP0409002 | 株式会社トウベ製造 | JIS K 5551 | 構造物用さび止めペイント | 2009/12/18 |
| JP0409003 | 株式会社トウベ製造 | JIS K 5659 | 鋼構造物用耐候性塗料 | 2009/12/18 |
| JP0509006 | 神東塗料株式会社 | JIS K 5551 | 構造物用さび止めペイント | 2009/12/28 |
| JP0509007 | 関西ペイント株式会社 | JIS K 5621 | 一般用さび止めペイント | 2010/ 1/20 |
| JP0309002 | 日本特殊塗料株式会社 | JIS K 5970 | 建物用床塗料 | 2010/ 2/ 1 |
| JP0509008 | 大信ペイント株式会社 | JIS K 5572 | フタル酸樹脂エナメル | 2010/ 2/ 1 |
| JP0410001 | 菊水化学工業株式会社 | JIS A 6021 | 建築用塗膜防水材 | 2010/ 4/20 |
| JP0510001 | 神東塗料株式会社 | JIS K 5659 | 鋼構造物用耐候性塗料 | 2010/ 5/26 |

建築基準法に基づく性能評価書の発行

- ・建築基準法施行令第 20 条の 7 に基づく建築材料の性能評価を終え、当協会が平成 21 年 12 月 1 日から平成 22 年 5 月 31 日までの間に発行した性能評価書は表 2 のとおりです。

表 2 平成 21 年 12 月 1 日から平成 22 年 5 月 31 日までの間に発行した性能評価書

| 認可番号 | 発行日 | 対象条文 | 告示対象 | 商品名 | 申請会社 |
|---------|------------|---------------------|--|-------------------------------|------------------|
| JP-0173 | H22. 3. 12 | 令第 20 条の 7 第 4 項 | 両面塗装塗/集成材フローリング | アド・ラバーウッド・ フローリング | 株式会社アドヴァン |
| JP-0174 | H22. 3. 12 | 令第 20 条の 7 第 4 項 | 両面化粧材張/酢酸ビニル樹脂系エ マルション形接着剤塗/パーティク ルボード | Pannello Ecologico IDROLEB | 株式会社クッキング プラザ |
| JP-0175 | H22. 5. 24 | 令第 20 条の 7 第 4 項 | MDF | モービリ・シリーズ | 株式会社アドヴァン |

外部発表

・当協会が平成21年12月1日から平成22年5月31日までの間に外部発表したものは表3のとおりです。

表3 外部発表一覧（平成21年12月1日～平成22年5月31日）

| | 発表題目 | 発表者 | 発表先 雑誌名 | 出版社 主催者 |
|----|---|---------------|---|---------------------------------------|
| 講演 | 「食器塗膜と食品衛生法」 | 関根ゆかり | 大分県農林水産研究センター 林業試験場産業工芸試験所 平成21年12月9日 | 大分県農林水産研究 センター 林業試験場 産業工芸試験所 |
| 投稿 | 高反射率塗料を客観的に評価～環境技術実証事業ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術） | 清水 亮作 小川 進 | 2010年版 塗料年鑑 | 塗料報知新聞社 |
| 投稿 | 環境技術実証事業「ヒートアイランド対策技術」高反射率塗料における平成20年度の実証試験結果概要と平成21年度の実証技術 | 小川 進 | 月刊 地球環境 2010年4月号 | 日本工業新聞社 「月刊地球環境」 |
| 投稿 | 「高反射率塗料の性能評価」 | 清水 亮作 | 「高反射率材料の新展開」 2010年3月発行 | (株)シーエムシー出版 |

塗料試験方法研究会

・当協会が主催している当研究会にて平成21年7月1日から平成22年5月31日までの間に実施した勉強会は表4のとおりです。

表4 塗料試験方法研究会 勉強会（平成21年7月1日～平成22年5月31日）

| 部会 年月日 | 勉強会の内容 | 場所 | 参加者 |
|-------------------|--|------------------------------|--------|
| 東部会 平成21年8月28日 | 講演「CERI 東京事業所の概要」 講師 東京事業所 田所 博 講演「高分子材料の市場における不具合現象とその原因」 講師 高分子技術部 大武 義人 見学「CERI 東京事業所」 案内 各部門担当者 | (財)化学物質評価研究機構（CERI） 東京事業所 | 13社20名 |
| 西部会 平成21年12月2日 | 講演「防食試験機及び試験方法の最新技術と国際動向」 講師 スガ試験機(株) 須賀 茂雄 講演「塗料に関する JIS 規格の改訂動向」 講師 (株)日本塗料工業会 石丸 泰 | 大阪塗料会館 | 22社39名 |
| 西部会 平成22年3月16日 | 講演「建造物塗装と漆塗り」 講師 京都市産業技術研究所 大藪 泰 講演「文化財の漆塗装の修復について」 講師 (株)さわの道玄 澤野 道玄 見学「醍醐寺三寶院唐門（国宝）の修復状況」 案内 (株)さわの道玄 澤野 道玄 | 醍醐交流会館 醍醐寺 | 10社24名 |